

「コミュニケーション力」の向上を

— 成田市の英語教育 —



ゲームを通して英語に親しむ(中郷小1年生)

国際空港都市として、市では英語教育に積極的に取り組んでいます。昨年度から下総・大栄地区の小学校に英語科が設置されたことで、現在は市内全小学校で英語教育を実施。今年度は下総・大栄中学校を含め、市内全中学校で英語科授業時数を拡大して英語教育を推進しています。

教育課程特例校として 英語教育を推進

市が平成15年度から内閣府の特区制度を活用して取り組んできた「国際教育推進特区」は、平成20年度から文部科学省の「教育課程特例校」として継続しています。

教育課程特例校制度は、各学校が文部科学大臣の認定を受け、学習指導要領などの基準によらない特別の教育課程を編成し、地域の特性を生かした教育を行うために実施されているものです(3ページ参照)。

教育課程特例校制度により、市では、昨年度から下総・大栄地区の小学校に、



市独自の教材を使用しての授業(大栄中1年生)

英語を教科として設置しました。今年度からは、市内全中学校で英語の授業時数を拡充し、より充実した英語教育を実施しています。

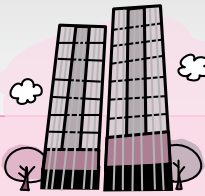
また、市では、すべての小中学校に外国人英語講師(ALT)を配置し、英語科授業の中で活用することにより、児童・生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成を目指しています。

市内6校が 国の研究校に

国の事業として今年度から開始された「英語教育改善のための調査研究事業」の研究校として、成田中・成田小・中郷小・豊住小・八生小・美郷台小の6校が

教育課程特例校制度運用の流れ

文部科学省



①申請

教育課程特例校の指定を希望する管理機関が、申請書を提出

②指定

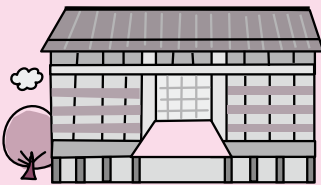
申請のあった教育課程編成や実施計画を審査し、教育課程特例校として指定

③報告

特別の教育課程の実施状況を把握・検証し、少なくとも3年に1度、報告

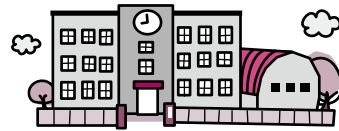
管理機関

(「教育課程特例校」が公立学校の場合は、各学校を所管する教育委員会)



教育課程特例校

(成田市では、「英語教育改善のための調査研究校」6校以外の、すべての小中学校)



英語での道案内にも挑戦(大栄中1年生)



イラストを使って自己紹介(中郷小3年生)

指定を受けました。
この事業は、英語教育を改善し、一貫性のある教育システムを構築するために実施されるもので、研究期間は平成21年度から平成23年度までの3年間。
小学校段階での英語教育の適切な開始
年次・授業時数や、中学校への円滑な移行を促す教育内容などを研究の対象にしています。

多くの児童・生徒が英会話に自信

市内の児童・生徒を対象に実施した平成20年度のアンケートによると、「英語を使って話をする事ができる」という質問に「はい」と答えた児童・生徒の割合は、小学生で69%、中学生で53%となっています。

また、英語の授業を受けることによって、「ふだんの生活でどのようなところが変わってきたか」という質問に、「友だちに、気軽にあいさつができるようになった」「明るく元気に過ごすことができるようになった」と答えた小学生の割合は、全体の66%でした。

市では今後も、実践的なコミュニケーション能力を育成することで将来に希望を持ち、自分の進むべき道を切り拓くことができるたくましい人材を育てることを目指しています。

※くわしくは教育指導課(☎20-158(2)へ)